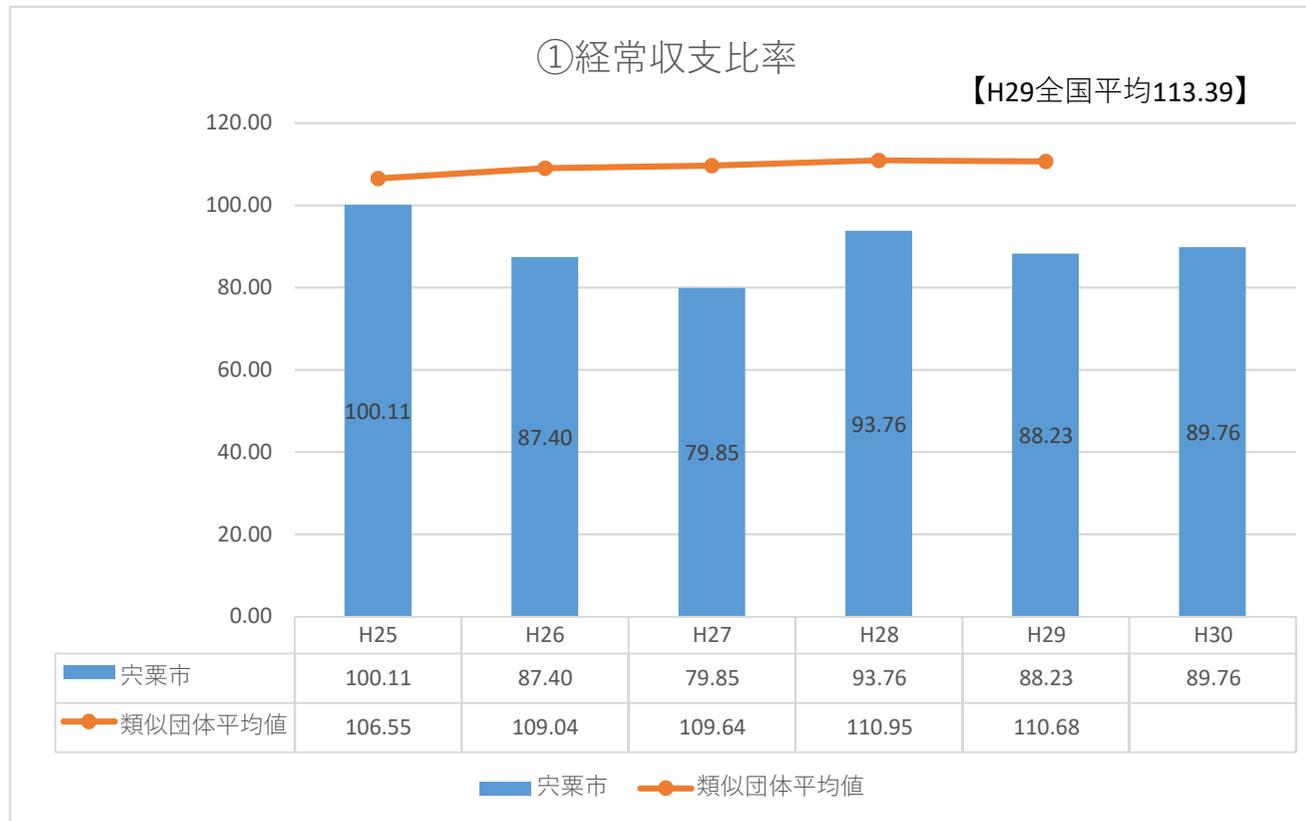


宍粟市経営比較分析



○ 指標の意味

$$\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$$

単年度の収支が黒字であることを示す。

100%以上となっていることが必要。

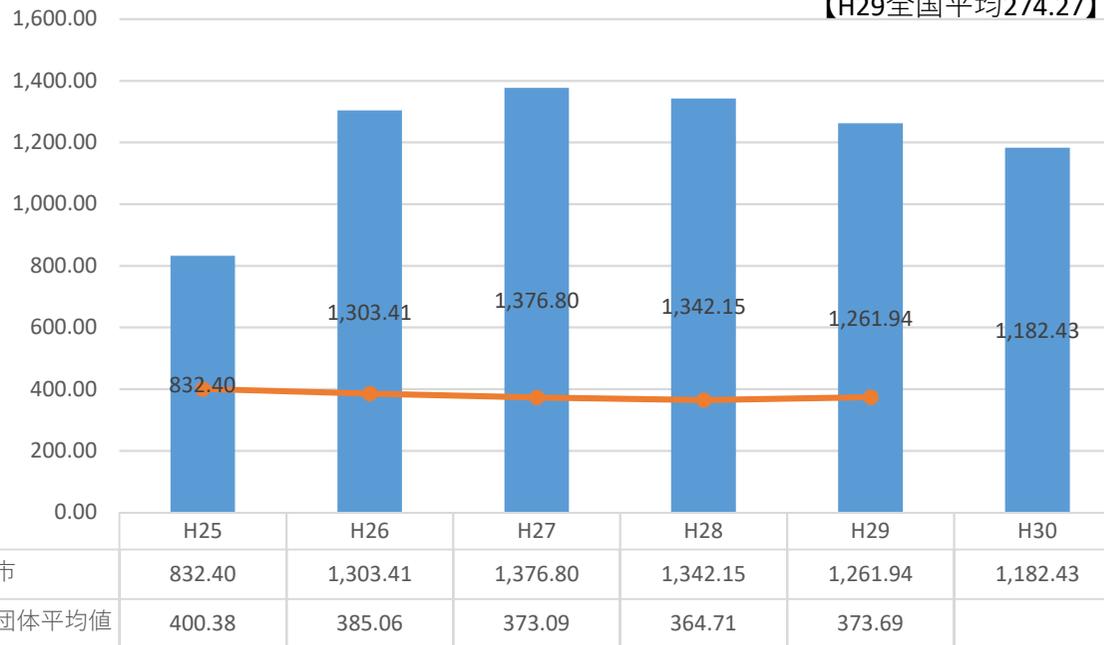
100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示している。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○ 経営の健全性を示す指標値であり100%が望ましいが、H29に比較して主に支払利息、減価償却費の減少により、1.53ポイント増となったが、単年度収支で赤字となっている。将来の施設更新費用が適正に積み立てできていない状況である。引き続き、経費削減と合わせて収入確保に取り組む必要がある。

②企業債残高対給水収益比率（％）

【H29全国平均274.27】



○指標の意味

$$\text{企業債現在高合計} \div \text{給水収益} \times 100$$

給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す。
投資規模、料金水準は適切か、必要な更新を先送りしているため企業債残高が少額となっていないかといった分析指標。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

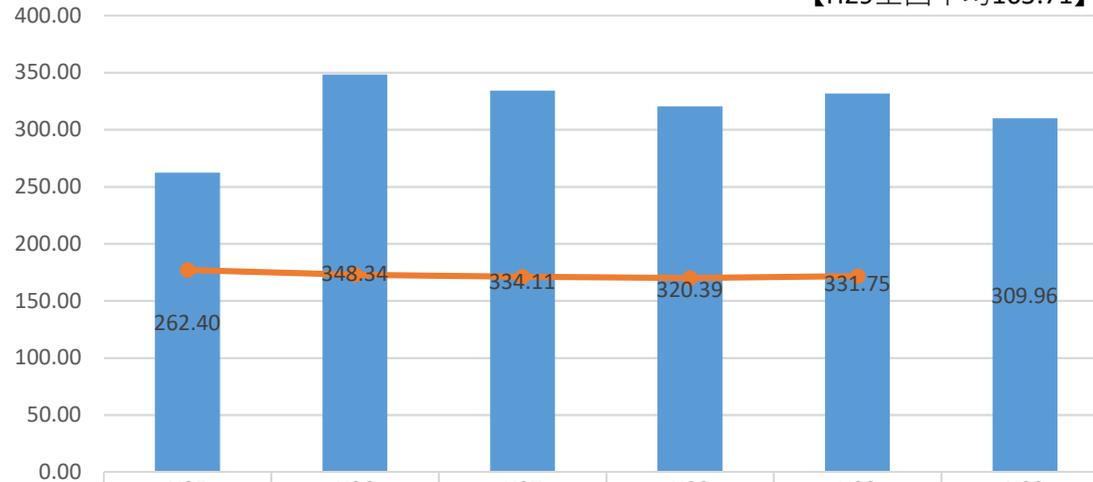
○ H26年度の旧簡易水道事業の統合により、類似団体と比較して約3.0倍近い率となっている。

起債残高については、H27をピークに減少に転じている。

現在、国の財政措置により、旧簡易水道事業債の元利償還については、市から1/2の補助（基準内繰入）があるため、負担は少し軽減されているが、今後、旧簡易水道事業で整備した施設の更新工事後については起債償還の支払いに伴う補助（基準内繰入）がなくなるため、施設数の多い当市としては、一段と厳しい経営を強いられると考える。引続き旧簡易水道施設への財政措置等を国へ要望を行っていく。

③給水原価（円）

【H29全国平均165.71】



■ 宍粟市	262.40	348.34	334.11	320.39	331.75	309.96
● 類似団体平均値	177.14	173.03	171.15	170.19	171.81	

■ 宍粟市 ● 類似団体平均値

○指標の意味

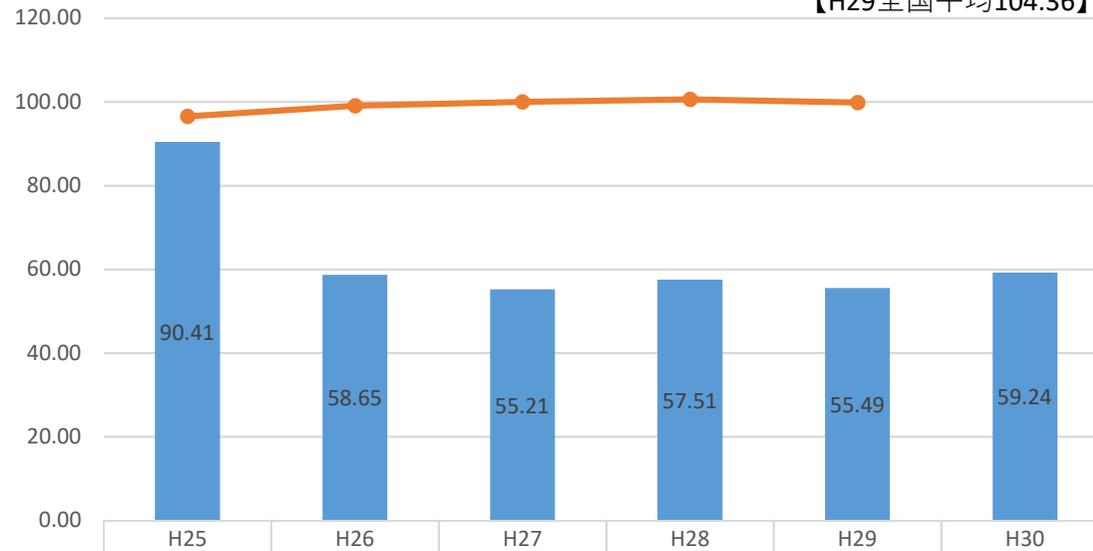
経常費用－（受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋付帯事業費）－長期前受金戻入÷年間有収水量
 有収水量 1 m³当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す。
 今後の料金回収率や投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善の検討が行うことができる。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○ 1m³当たりの水を作るために、どれだけの費用がかかっているかを示しており、宍粟市の地形的要因である谷あい集落が点在するなどの要因から類似団体と比較して約1.8倍となっている。減価償却費の減少も見込まれるが、今後、施設の統廃合・施設規模の適正化を進めていく必要がある。

④料金回収率（％）

【H29全国平均104.36】



■ 宍粟市	90.41	58.65	55.21	57.51	55.49	59.24
● 類似団体平均値	96.56	99.07	99.99	100.65	99.87	

■ 宍粟市 ● 類似団体平均値

○指標の意味

$$\text{供給単価} \div \text{給水原価} \times 100$$

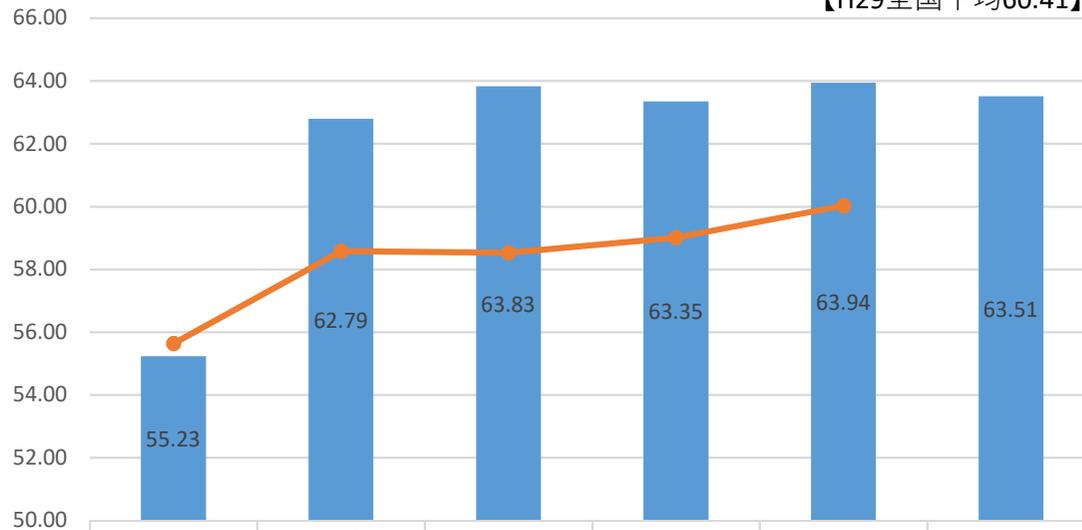
給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す。
料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○ 1m³当たりの水を作る費用に対し、水道料金でどの程度回収できるかを示しており、類似団体よりも低い率となっているが、給水収益以外の収入として高料金対策補助金、旧簡水施設の支払利息補助等の収入により賄っている。
今後、減価償却が進むことにより、高料金対策補助等が減少する見込みであり、収入確保と費用削減が必要となってくる。

⑤施設利用率 (%)

【H29全国平均60.41】



■ 宍粟市	55.23	62.79	63.83	63.35	63.94	63.51
● 類似団体平均値	55.64	58.58	58.53	59.01	60.03	

■ 宍粟市 ● 類似団体平均値

○指標の意味

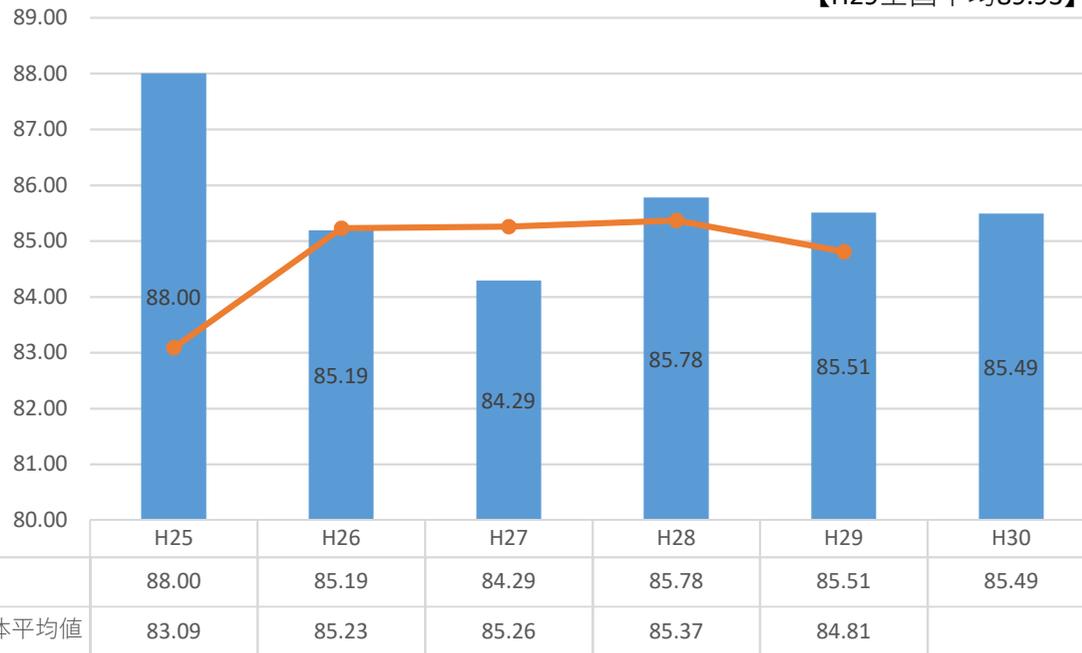
1日平均配水量 ÷ 1日配水能力 × 100
 1日配水能力に対する1日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。
 一般的には高い数値であることが望ましい。現状や将来の給水人口減少等を踏まえ、施設の統廃合・施設規模の縮小等の検討が必要。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○施設の活用を示す指標であり、施設の稼働率は類似団体より若干上回っているが、これからの水需要の減少傾向を踏まえれば、個々の施設毎に施設規模の適正化の検討を進めていく必要がある。

⑥有収率（％）

【H29全国平均89.93】



○指標の意味

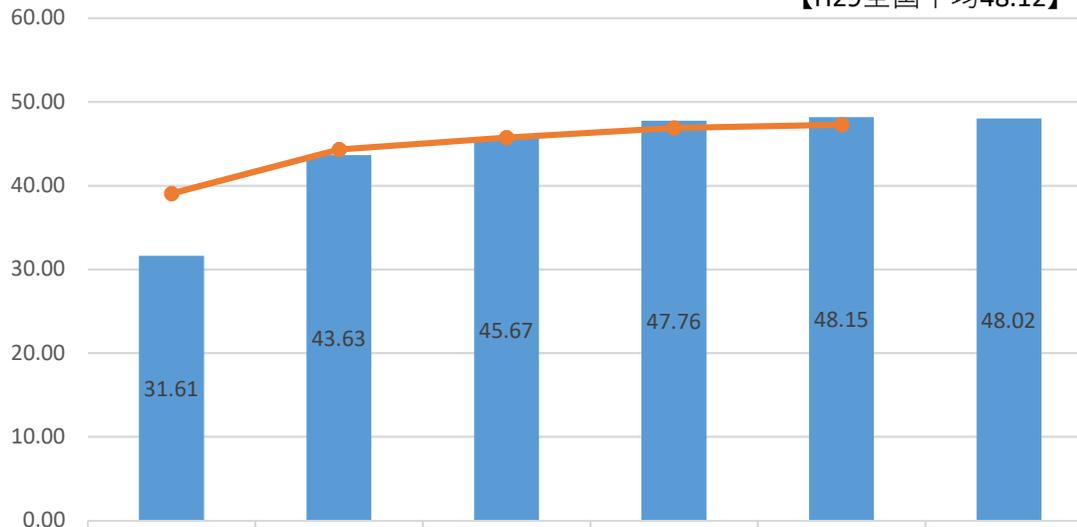
年間総有収量÷年間総配水量×100
 施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。
 100%に近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。
 数値が低い場合は、漏水やメーター不感といった原因を特定しその対策を講じる必要がある。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○ 施設の効率性を示す指標であり、有収率は前年より0.02%減少している。原因としては、平成30年度7月豪雨による災害復旧工事に伴う水抜き、洗管等の事業用水量の増加が考えられる。また、漏水調査等を効率的に行って漏水防水に努めるとともに、老朽化した管の更新に努めていく必要がある。

⑦有形固定資産減価償却率（％）

【H29全国平均48.12】



■ 宍粟市	31.61	43.63	45.67	47.76	48.15	48.02
● 類似団体平均値	39.06	44.31	45.75	46.90	47.28	

■ 宍粟市 ● 類似団体平均値

○指標の意味

有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価。

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示している。

一般的に数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。

将来の施設更新等の必要性を推測することができる。

※全国・類似団体平均の最新公表数値は平成29年度

○ 施設老朽化の度合いを示す指標であり、昨年度より0.13ポイント減となっているが、全体として水道施設の老朽化が進んでおり、今後計画的に設備投資を行っていく必要がある。